

令和 7 年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立 橘小学校

令和 7 年 10 月

(様式例 2)

大阪市立橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○みんなで楽しく学校生活を送るために、学校のきまりを理解し、守ることができるよう、計画的に取り組む。そして、ふり返る機会を設ける。</p> <p>○「生活ふりかえりカード」にて明らかになった問題に関する啓発や、児童による点検活動など主体的に行動できるように計画する。</p> <p>○いじめを許さない心を育てるために、児童会を中心にいじめ（いのち）について考える日等の集会活動に取り組む。</p> <p>指標</p> <p>○各学級に「学校のきまり」を掲示し、学期ごとに振り返りや確認を行う。</p> <p>○「生活ふりかえりカード」の取組を年間 3 回行う。</p> <p>○いじめに関する代表委員会を中心とした集会活動に年 1 回以上取り組む。</p> <p>○外部関係機関とも連携しながら、外部講師による授業や学習の機会を学校全体として、年間 3 回以上設ける。</p>	C
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <p>○すべての教育活動を通じて、「自分も人も大切にする」ことを意識し、子どもの自尊感情を高め、認め合える関係を築く。</p> <p>指標</p> <p>○校内の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的な回答の割合を 86%以上にする。</p> <p>○校内の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的な回答の割合を 96%以上にする。</p> <p>○多文化共生教育を推進するために、外部講師による授業（年間 5 回以上）や校内発表会（1 回以上）を実施する。（民族学級 30 周年校内発表会を含む）</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① ① 6月に「生活がんばり週間」を実施し、児童のきまりを守る意識を高めることができた。「生活がんばりカード」で振り返りを行うとともに、明らかになった課題に対して各委員会において取り組みを行い、児童の生活を改善しようとする意欲喚起に努めた。
・「いじめ（命）について考える日」をはじめ、児童会を中心に各委員会でいじめについて取り組み、全校児童にむけて啓発することができた。しかし、校内においてにいじめに関わる事象が複数回起こった。いじめ防止へ向けて全校集会や学年集会を臨時に行い取り組みを進めてきた。
- ② ② 校内アンケートの結果から、「自分にはよいことがあると思う」の項目が 84%（目標 86%）、「自分も人も大切にしている」の自分に対しての肯定的な回答の割合は 92%（目標 96%）と、自分を大切にする気持ちに依然課題がみられる。一方で、「人を大切にしている」項目で肯定的な割合は 98%（目標 96%）と達成している。
・多文化共生教育については、民族学級 30 周年を祝う会、1・3・6 年生対象の韓国・朝鮮にかかる課内実践、1・3・5 年対象のベトナムにかかる出前授業を、外部講師を招きながら計画どおりすすめている。

次年度への改善点

- ① ① 「いじめ（命）について考える日」に対する各委員会での取り組みは、次年度も行いたい。また、まだ行っていない委員会では取り組みを進めていく。いじめ対策委員会等で決定された方針に基づいて、いじめが起こりにくい環境やいじめを発見できる環境づくりに取り組んでいく。今後もこの取り組みを継続していく。
各教職員が担当学年だけでなく、他学年児童に対しても声掛けを行い、人間関係をつくり指導・支援をしていく。
- ② ② 自分の良さは他者からの評価によって気づき、育まれる側面も大きい。友だちとお互いの個性を認め合える場を、日々の学級活動の中により多く取り入れる。
・多文化共生においては、さまざまな国にルーツを持つ児童が増えている現状から、出前授業のあり方を見直し、より多くの子どもが友だちのルーツとなる国について知ることができる機会を得られるようにする。

(様式例 2)

大阪市立橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 43%以上にする。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>○校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童を 93%以上にする。</p>	C
<p style="text-align: center;">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○毎日の授業や教育活動で、一人一人が自分の考えを発表したり、他の人の考えを聞いたりして、意見を交流する機会を設定する。さらに、自分の考えを深め、広げることができるように指導・支援を行う。(ペア学習、グループ学習など)</p> <p>○児童一人一人の学力や実態に応じたデジタルドリル(navima 等)の活用を習慣づけ、基礎・基本の定着を図る。個別学習の充実を図る。※通級指導</p>	進捗状況
<p>指標</p> <p>○校内アンケートにおいて「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の児童の最も肯定的な回答の割合を 45%以上にする。</p> <p>○家庭学習も含め、児童がデジタルドリルを週 2 回以上取り組めるようにする。</p> <p>○校内アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の児童の最も肯定的な回答の割合を 60%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <p>○体育の授業や体育的行事や取組等で、児童の体力の向上を図る。特に跳ぶ力(瞬発力)を高める。(立幅跳び)</p>	B
<p>指標</p> <p>○令和 7 年度の校内の運動能力調査において、1 年～6 年の立幅跳びの記録を年間で 3 cm 伸ばす。</p>	B

取組内容③【5 健やかな体の育成】

○バランスの良い食事を心がけて、好き嫌いなく食べようとする意識を高めるように各学級での給食指導や栄養指導を充実する。

B

指標

○「健康生活がんばりカード」において「(給食を)自分で決めた量を残さず食べている」の児童の肯定的な回答の割合を90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①・校内アンケートにおいて、「友達との話し合う活動に通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目が46%と目標より1%上回る結果となった。
- ・各学年でペアトーク、グループトーク等話し合う機会を設けた結果、話し合い活動の中で自分の考えや意見を深め、広げることができていると考えられる。
 - ・「家庭学習も含め、児童がデジタルドリルを週2回以上取り組めるようにする」では定着できるほど、デジタルドリルをするところまで使っていないため、活用できていない。また使う頻度については単元によって異なり、学級によっても違いがある。
 - ・校内アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の項目では最も肯定的な回答の割合が56%となり、4%下回る結果となった。日々の授業で分からまま過ごしている児童が半数近くいることが考えられる。
- ②・気温が高く運動場での活動に制限があった。そのため休み時間に講堂の開放を行うことで運動時間を確保することができた。また児童のストレスを和らげることもできたと考えられる。休み時間に講堂を利用することにより、学年や学級あそびを位置づけることができた。(9月中講堂開放実施)
- ・立ち幅跳びの記録が大幅に伸びている。今年度も体育実技研修会を行い、指導方法を各領域に活かしていく必要がある。
- ③・本校に栄養教諭が在籍していることによって、給食指導・栄養指導が充実している。
- ・「いただきます」の前に献立紹介することで、食材を知り食べず嫌いの児童を少なくするように指導することができた。
 - ・給食指導のパワーポイントを見せることで、家庭での経験を振り返り食材に対する関心が高くなった。
 - ・各学級での栄養指導は給食を生きた教材として活用することができた。また栄養教諭による巡回での個々への声掛けによって食育について学ぶ機会が増え、給食時間を楽しみにしている児童が増えた。
 - ・自分の食べる量がわかってきたことにより、給食を完食できる児童が増えている。
 - ・肯定的な回答がほぼ9割に達している。

次年度への改善点

- ①・話し合いの場は設けているが、話し合いの内容を深め、広げるところまでは至っていない。各学年や各学級で取り組んでいる話し合いの仕方について情報共有し、より良い方法を見つけていく。
- ・デジタルドリルの活用については、授業の練習問題で活用したり、宿題に出したりすることで習慣づけを図っていく。また学習者端末の活用方法については研究部会や校内研修会等で情報共有していく。
 - ・児童が主体的に学ぶためには、単元の目標を意識し、授業のねらいを共有する必要が

ある。また具体物の作成だけでなく、毎授業の発問を意識して取り組む必要がある。授業後には児童に振り返りを書かせ、確認する。その中で児童が理解することができていたところ、難しかったところを確認し、次に活かしていくサイクルを担任をはじめ、学年全体が意識して取り組んでいく。

- ②
 - ・気候の変化に対応しながら、子どもが運動する機会や場の確保につとめる。(寒い時期に運動場で遊ぶ活動を考える。)
 - ・体力づくりについては今後も運動集会を予定しており、体力向上に努める。
 - ・暑い時期には、休み時間における講堂解放の割り当てを継続する。
- ③
 - ・給食指導・栄養指導を継続して行う。
 - ・ハンカチ・ティッシュ・マスクを持ってきている児童が少ないことに対して、委員会などを中心に啓発していく。

(様式例 2)

大阪市立橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日 50% 以上にする。（「学習者用端末 月間活用率表」より）</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2を満たす教職員の割合を 50% 以上にする。</p> <p>○令和 7 年度の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の願いを受け止めて教育活動を進めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90% 以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールライフ機能を活用し、児童が毎日「心の天気」を入力したり、教職員がミマモルメの「欠席連絡」を日々確認したりすることで、毎日の児童の体調や気持ちについて共通理解し、早期に対応できるようにする。 ・学習者用端末を活用した個人学習（デジタルドリルや家庭学習を含む）を週 1 回以上実施する。 ・各学年の児童の実態に応じて年間指導計画に位置づけ、プログラミング学習に年に 1 回以上取り組み、プログラミングに対する意欲を伸ばす。 ・本校の年間計画に沿って、ICT 機器を活用した学習を週 2 回以上実施する。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度の校内調査で「学校活動の中で学習者用端末を使用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 75% 以上にする。 	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポートスタッフを有効に活用できるよう業務依頼を計画的に行い、職員の負担を減らす。 ・「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた、キャリアステージに対応した研修を体系的・計画的に実施する。 ・教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができる環境の実現をめざす。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な取組や教職員の必要性に応じて全体研修、メンター研修を実施する。（年間全体研修 9 回、メンター研修 5 回） ・会議内容の精選や焦点化を図ったり、会議の終了時刻を明示したりすることで、各自が計画的に進めることができるようになる。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・学年集団による学年打ち合わせを週に1回設け、機能化を図る。 ・「ゆとりの日」を月1回以上設定し、退勤時刻を17時にする。学校閉庁日については、夏季休業日期間中は4日以上、冬季休業日期間中は3日以上を継続する。 	
<p>取組内容③【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と連携した学習活動を各学年で1単元以上行う。 (1年:春(秋)さがし／2年:町たんけん／3年:福祉／4年:防災／5年:仕事(職業)／6年:歴史) ・保護者や地域と連携した児童会行事だけでなく、学校行事や各学年の取り組みにおいて年間で1回以上行う。(「防災体験」「車いす体験」等) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページやミマモルメを活用することで、令和7年度の保護者アンケートの「学校は教育内容を家庭に発信する機会をよく設けている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、昨年度より1ポイント増加させる。 ・学校協議会を年間3回実施し、学校の現状を伝え、地域の思いや意見を幅広く認知してもらい、理解や助言を得られる機会にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の校内アンケートで「学校活動の中で学習者用端末を使用している」の項目において「ほぼ毎日」と答える児童の割合は64%という結果になった。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の「心の天気」の入力をすることで達成に近づけるが、クラスによって入力率の違いがあった。担任は声をかけているが、遅刻が多いクラスやタブレットの充電の状況によって朝に心の天気が入力できていない実態があった。 ・年に1回のプログラミング教育の活用については下記の通り、計画を立て実施していく。 <p>1年 算数(12月) レッツプログラミング 2年 算数(12月) レッツプログラミング 3年 総合(12月) スクラッチ 4年 総合(9月) ペッパーくん 5年 算数(12月) 正多角形と円 6年 理科(1月) 発明と電気の利用</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の実態に合わせた研修の学びから授業力向上を実感する一方で、日々の業務や問題に対応して、ゆとりをもって取り組むことが難しいこともある。 <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や各会議を効率よく進めようとする意識が定着したり、問題事象において複数で対応する体制が機能させることで、教材研究や子どもと向き合う時間の確保に努めている。また、学年打ち合わせを週1回行事予定に明記し、学習の進捗や児童理解等の共有も進んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆとりの日」を月1回以上設定しているが、退勤時刻を17時には難しい。しかし、昨年度に比べて、職員間での声かけや早く退勤する雰囲気が高まっている。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページやミマモルメの活用に対する保護者の理解は、得ることができている。特に学校ホームページについては、保護者だけでなく児童も興味関心をもち、閲覧している。 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階に応じて保護者・地域との連携した学習を系統的に展開している。 	

2年生の生活科における「町たんけん」での地域の人々との関わりや5年生における地域の企業訪問での職業観の育成にむけて、計画的な学習を進めている。

- ・11月の土曜授業では区役所・防災リーダーと生活指導部が協同し、実践的な防災学習の計画を進めている。また、福祉分野の活動（3年車いす体験や児童会活動による赤い羽根募金）を通じて、社会福祉協議会と連携し、進めている。
- ・6～9月の猛暑により、従来の年間カリキュラムでは、地域学習（町探検等）ができない場合がある。
- ・総合的読解力（35時間分）が、地域連携で得た情報を分析・活用する実践力につながっているかの具体的な検証が不十分である。

次年度への改善点

- ①
 - ・全学年の学習者端末が新しくなったことにより、「心の天気」の入力がスムーズになった。
 - ・学習者端末の活用を活発にしていくために児童朝会で使用率について情報共有を継続する。
 - ・「心の天気」の意義について、児童だけでなく教員も確認する。
- ②
 - ・ナビマドリル等を毎日の家庭学習に取り入れたり、校務分掌分担の内容を見直したりすることで、業務時間の短縮化を図り、教材研究や子どもと向き合う時間を確保する。
 - ・日常の学級・学年経営の指導力向上につながる研修を継続して実施する。特に、児童理解や問題事象を含む情報共有は、学年打合せを継続し、日常的な協力体制を強化していく。
- ③
 - ・iPadやタブレット端末を用いたホームページのアップロードを正式な校内のワークフローとして教員へ周知し、業務の標準化と効率化を図っていく。
 - ・総合的読解力に関わる学びが、地域学習とどう結びつくのか、どんな力をつけていくのかを各学年で検証し、次年度のカリキュラムの見直しを図る。